

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒  
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

インド キアル村にて



山登りの楽しみの一つに人との出会いがある。見知らぬ土地での見知らぬ人との出会い、そこからまた、新しい世界が広がる。

去年の 7～9 月、当時の自衛隊山岳友の会の仲間と、インド・キシウトワールヒマールのシックルムーン峰 (6 5 7 4 ㌦) に遠征した。



山登り自体は犠牲者を出して敗退する不

幸な結果に終わったが、目的の山に至るキャラバンでの山村の人々との心温まる交流は、忘れられない思い出である。

特に、雨に降りこめられてポーターが集まらず、5 日間の停滞を余儀なくされたキアル部落



(2 0 9 4 ㌦) の印象は鮮烈である。4 0 戸ほどの小さな貧しい

部落ではあるが、村人は皆、人なつっこく親切



だった。子供たちも貧しいながらもこざっぱりし

た服装で、礼儀正しい。道端で会う我々見知らぬ日本人にも、きちんと挨拶をしてくれた。

部落の中央に寺子屋風の小学校があり、その授業風景を見学した。小学校といっても、柱 4 本が屋根を支えるだけの吹き抜けの土間に先生用の椅子が 1 脚あるだけである。子供たちの筆記具といえば、各人が首から提げた黒板と水で溶いた粘土の小瓶で、ヨウジの先を粘土に浸して黒板に書き方練習をする。教科書は先生が所持する 1 冊だけで、その内容を先生が口伝えに説明するというやり方である。

先生を囲んで土間に座りこんだ子供たちの、先生の説明を聞く真剣なまなざしがまぶしかった。



その中年の先生と夕方、お茶を飲み

ながら歓談した。「私たちのこの貧しさを、しっかり見て行って下さい。これが白色人種・英国人の 2 百年余のインド植民地支配の結果なんです。アジアの近代化は、やはりアジア人でなければ達成できない。アジア人のリーダー・日本に是非、アジア近代化の先導役をお願いしたい」との彼の涙ながらの熱弁に、私も胸が熱くなった。